

Ⅲ

子供の自尊感情や自己肯定感の 傾向を踏まえた実践事例

本章においては、自尊感情を構成する3つの観点（「A自己評価・自己受容」「B関係の中の自己」「C自己主張・自己決定」）に視点をあてた保育や授業での実践事例について、校種別（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）に示しました。

授業だけでなく、保護者との連携や子供の個別指導に活かす方法についての事例も示しています。

1

幼稚園における実践事例

A 自己評価・自己受容 に視点をあてた実践事例（幼稚園）

教材の
工夫

「ブンブンコマであそぼう」（5歳児）

～いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ～

幼児の自尊感情を高めるには、幼児が様々な場面で達成感を味わい、自分にできることが増えていく喜びを感じさせていくことが大切である。そこで、幼児が日常の遊びの中で取り組める教材として、ブンブンコマを取り入れた。ここでは、教材の特徴と実際に幼児がブンブンコマを自分で作り、遊んでいる場面を紹介する。

教材の特徴

「ブンブンコマを回せた」「いろいろな音が出ることを発見した」など、幼児に「できた」という実感をもたせることができる。

二人で一つの教材を活用することができるので、友達と一緒に活動することができ、友達同士で協力したり、励まし合ったりして活動することができる。

幼児の活動の成果が明確に分かり、幼児の変容が把握しやすい。

ブンブンコマを回すという活動だけではなく、回すことによって出る音の変化を楽しんだり、回し方を工夫して遊んだりすることができ、一つの教材で様々な活動ができる。

回し方や音の出方など、幼児の発想で工夫して活動することができ、その成果を友達に見てもらうことにより、さらに自信をもたせることができる。

幼児の活動場面

A 自己評価・自己受容 ②相互理解

互いのアイデアを取り入れながら遊び、互いの活動のよさを認め合うようにする。



二人で一緒に回そう。

机のへりに当てるとおもしろい音がるよ。

いろいろな向きでも回せるよ。



音楽会の合奏でブンブンコマの音を入れてみたよ。



ビュンビュンっていう音がするよ。

今後の指導に活かせるように
この活動を通して、幼児が自ら「やってみよう」という気持ちをもつようになり、今まで他の遊びに躊躇していた幼児も、自分から取り組むようになった。今後は、子供たちに「やればできる」という自信をもたせ、この活動で得た自信や意欲を他の活動でも生かして助言や援助をしていく。

また、二人でブンブンコマを回すときに、互いに気持ちを合わせるとおもりを付けなくても回すことができた。今後は、自分のやりたいことだけでなく、相手の気持ちも考えながら遊ぶことができるよう助言や援助をしていく。

B 関係の中での自己 に視点をあてた実践事例（幼稚園）

教師の
かわり

「いっしょにあそぼう」（4歳児）

～友達と一緒に活動することで楽しくなることに気付く～

遊びをする際に、教師の同意がなければ取り組めないA児が、「オートバイを作りたい」と教師に言ってきた。そこで、教師は中型積み木を提示し、それでオートバイを作って遊ぶことを通して、A児に他の幼児との関わりが生まれ、友達と一緒に遊んで楽しかったという気持ちをもてるようにしたいと考えた。また、A児のよさに他の幼児が気付くように声かけをし、友達関係を深める出会いの場を設定した。

先生、
Aくんは何を
しているの？
ほくもやっ
てみたいよ。



今まで一緒に遊んだことのないA児とB児が初めて
出会う場となるので、A児に「B児と一緒に遊んで楽
しかった」という気持ちを抱かせたい。また、友達
と関わって遊ぶことで、A児のよさをB児に気付か
せ、A児に自信をもたせたい。

Aくんは、オート
バイを作っているん
だよ。
Aくん、Bくんもやり
たいって言っているよ。
一緒にやってみる？

幼児同士が十分に言葉にして伝えきれないことを教
師が言葉を代弁し、互いの幼児の思いを伝える。

B 関係の中での自己 ④支えの気付き

友達と一緒に活動することで、新しいことを見付け
たり、遊びが楽しくなったりすることに気付くよう
にする。

Bくんも、
一緒にやっ
てもいいよ。



A児とB児が互いの存在を意識し、「一緒に遊んでい
る」ことを意識し、友達と遊ぶ楽しさに気付かせたい。

Aくん、オートバイ
仲間がいっぱいできたね。
友達がたくさん乗れる
オートバイを作ってみ
よう。

遊びの中で、一緒に遊んだ楽しさを感じられるよう
な言葉かけをする。

事例の表記について

教師の言葉

教師の願い

-----> 教師の受け止め

幼児の言葉

教師の手だて

← 教師の投げかけ

今後の指導について

教師が幼児同士のイメージや考えをつなげるように言葉をかけたり、やりとりのモデルを示したりすることで、幼児同士の関わりが見られるようになった。

この時期は、自分が興味をもった遊びに関わる中で、少しずつ友達にも興味をもち始める時期である。教師が遊びの中に入りながら、一緒に遊ぶ楽しさや嬉しさを共感したり、互いの思いを伝えたりして、友達がいることで遊びが楽しくなることに気付くようにしていく。

C 自己主張・自己決定 に視点をあてた実践事例（幼稚園）

教師の
かわり

「自分のやりたいことを友達に伝えよう」（5歳児）

～自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く～

A児は、女児数名と大好きなバレエごっこをして遊んでいた。そこにB児が来て、「Aさん、遊ぼう」と誘われると、少し困った顔をしてその場から離れようとした。教師は、A児が日頃から他の友達の反応が気になり、自分の思いを伝えられないことが気になっていた。そこで、教師がA児の気持ちに共感しながらA児の思いを代弁してB児に伝え、A児が友達と一緒に自分のやりたい遊びを楽しむことができるようにした。

A児のアイデアで遊ぶことによって、A児のよさが他の幼児にも認められるようにし、A児に自信をもたせたい。

A児とB児のそれぞれの思いを個別に聞く。



バレエごっこがしたいの。

A児

Aさん
楽しそうに踊っていたけど、Aさんは、Bさんと何をして遊びたいの？



Bさんは、何をして遊びたいの？



B児

AさんがバレエごっこをしたいとBさんに言ったら、Bさんも分かってくれるよ。Bさんと一緒に遊んだら、きっと楽しいと思うよ。

C 自己主張・自己決定 ①自己信念の遂行意欲

自分のやりたい遊びを友達に伝え、自分のよいところを生かした活動ができるようにする。

A児が自分の思いを相手に伝え、友達が自分の思いを受け入れてくれる喜びを感じられるようにすることで、自分のよいところにも気付くようにしたい。

わたしバレエがしたいの。Bさん、一緒にやろう。



うん、いいよ。わたしもバレエをやりたいかったの。



A児はB児と何をして遊ぶかを相談するが、A児は自分のアイデアは受け入れてもらえないのではないかと不安になっているので、教師はA児のアイデアを認め、B児に思いを伝える意欲をもたせる。

教師が「二人とも、本当はバレエがしたかったのね」と言うと、A児とB児は、「そうなの」と言って笑い、二人とも同じ気持ちであったことを共感することができた。その後、A児とB児は、したい遊びをするためにはどうしたらよいか一緒に相談する姿が見られるようになった。A児は自分がやりたいことを教師の励ましによってB児に伝えることができ、自分の思いが相手に伝わる心地よさを感じることができた。

今後、A児には、様々な友達との関わりの中で友達とアイデアを出し合いながら活動する体験をさせ、自分自身のよさに気付くよう援助していく。

今後の指導につなげる

保護者との連携

「保護者との連携」(全学年)

幼児が自尊感情や自己肯定感を高めていくためには、保護者にも幼児に自尊感情や自己肯定感を育てる大切さを知らせ、幼稚園と保護者が共通理解を図りながら幼児を育てていくことが重要である。そのため幼稚園では、園だより等で子供の自尊感情を高めることにつながる園の取組を紹介したり、講演会で幼児とのよりよい関わり方について啓発したりするなど、保護者の子育てを振り返る機会をつくる。

事例1 保護者会・園だより

- ◆保護者会では、幼児の実態について話し、幼稚園の教育方針について理解と協力を依頼する。
- ◆園だよりでは、幼稚園での幼児の活動を通して幼稚園における取組を紹介ながら、家庭での子育てに役立つ情報提供をする。



事例2 アンケート

- ◆アンケートを実施し、保護者の幼稚園の取組に対する要望や子育てに対する意識を把握する。その結果を踏まえ、指導の方向性について教員間で共通理解を図る。
- ◆右の例で示した項目から、保護者の自尊感情に関するイメージを把握するとともに、保護者の自尊感情に対する意識を高め、後日、実施する講演会につなげる。

＜アンケートの例＞

幼稚園では、「すすんで自分のよさを発見し、自分をかけがえのない存在だと思い、自信をもって行動する子供」を育てるために、様々な取組を行っています。

Q1 保護者の皆様は、「自尊感情の高い子供」とは、どのようなイメージをおもちですか。

事例3 自尊感情や自己肯定感を高めることをテーマにした講演会

- ◆保護者は、講師の話聞いて、自尊感情を高める大切さを理解するとともに、保護者自身が自尊感情に対する意識を高めていけるようにする。
- ◆教師は、講演会後の保護者の変化を把握し、保護者の関わりを認めていくようにする。保護者の変化を認めることで、保護者に、幼児への褒め方や認め方を伝えていくことができるようにする。



第4学年 学級活動 活動内容（1）

① 議題名 「みんなが仲良く楽しめる係を決めよう」

② 本時の目標

- ・ 協力して話し合い、係の組織を決めることができる。
- ・ 話し合いを通して自分が学級のためにできることや頑張れることを考え、自分の所属する係を決めることができる。

③ 議題設定の理由

本時は、学級活動（1）-「イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理」にあたる活動である。

児童は、4年生になって上学年の仲間入りをした自覚が芽生え、学級や学校の活動に自ら参画していこうとする意識をもち始めている。係活動については、3年生のときから創意工夫ある活動を行えるよう声をかけてきた結果、少しずつ学級の友達を意識した工夫ある活動が生まれるようになってきた。4年生になり、学級のためになる仕事について改めて皆で考えることにより、学級生活についての意識が高まり、さらに創意工夫あふれる活動や自治的・自発的活動が活発に展開されるようになってきた。また、係活動は、自分が周りの人の役に立っていることや周りの人の存在の大切さに気付くことができる場面が増える活動であり、他者への貢献意欲や感謝の思いの高まる活動であると考え、本議題を設定した。

なお、着目したい児童への指導の方向性としては、自分に取り組んだ活動により学級の生活が豊かになったり、学級みんなのためになったりしたことを具体的な活動場面を挙げて児童の活動を価値付け、児童のよさを認める助言をし、みんなのために活動する喜びに気付かせるようにする。このように「B関係の中での自己」に視点をあてた手だてを講じることで、児童一人一人の貢献意欲を高めるとともに、みんなの力で学級の生活をよりよくしていこうとする意欲をもたせたい。

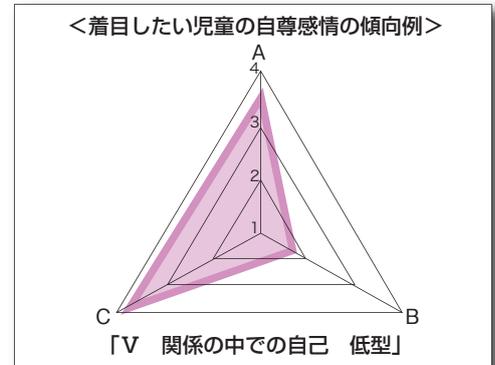
④ 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

- ・ これまでの自分や友達の係活動を振り返ることを通し、係活動を通して学級の生活が豊かになったことや、みんなのために活動する喜びに気付かせる。
- ・ 「学級のために」という視点で学級に必要な仕事について話し合うことで、自分が学級のためにできることや頑張れることを考え、実行できるようにする。

（特に重点にする観点と指導上の留意点…【B関係の中での自己 ③貢献意欲】）

⑤ 本時までの指導の流れ

- ・ 児童の自尊感情の傾向を把握するために、自己評価シートによる調査を実施し、個々の傾向を把握する。
- ・ 事前に、計画委員会による話し合いの計画立案を行う。また、「がんばりカード」にそれぞれが「自分の考え」を書いておくよう指導する。



6 本時の指導（展開例）

	学 習 活 動	○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等 □着目したい児童への指導の方向性
導 入	(1)児童が主体的に話し合いに参画するために、提案理由を説明し、話し合いのめあてを確認する。 議題………みんなが仲良く楽しめる係を考えよう 提案理由…みんなが仲良くできる学級にしたいから めあて………友達のことを考えて、協力しながら楽しい係を考えよう	○本時の話し合いを円滑に進めるため、事前に計画委員会を開き、司会グループが学級の児童から提案された意見をまとめ、原案として提案するようにする。 ○話し合いのめあてを確認し、話し合いの途中でもめあてを意識する助言を必要に応じて行う。
展 開	(2)これまでの係活動を振り返り、みんなのためになった活動について話し合う。 (3)どんな係があるとみんなが仲良く楽しめるのか話し合い、係を提案し、係を決める。 (4)話し合いで決まったことを記録係が発表する。	○学級や友達のことを考えた発言や態度に着目し、必要に応じて声かけをする。 ■これまでの係活動を振り返り、係活動を通して学級の生活が豊かになったことや、みんなのために活動する喜びに気付くようにする。 【B関係の中での自己 ③貢献意欲】 (⇒P.20) □自分の係活動の具体的な活動場面を想起し、児童の活動のよさを認める助言をするなど、みんなのために活動する喜びに気付くようにする。 (⇒P.15「Vタイプ」) ■学級のために自分ができることや自分が頑張れることを考えるようにする。 【B関係の中での自己 ③貢献意欲】 (⇒P.20)
ま と め	(5)本時の活動を通して、自分のめあてを振り返るなど「がんばりカード」に記入する。 (6)本時の活動で友達のことを考えて発言していた人や学級のためになるようなことを発言していた人を発表する。	○話し合いのめあてを確認し、めあてを達成することができたかということや、話し合いを円滑に進めるために協力したことについて記入できるよう助言する。 ○本時の活動を振り返る中で、友達のよさに気付くとともに、児童が「がんばりカード」に書いた内容を学級全体に紹介するなどして、児童の発言や態度を具体的に褒め、今後の意欲につなげる。 ☆学級のために自分ができることや自分が頑張れることを考えながら設置する係や所属を決めることができたか。

※(⇒)は指導資料のページ番号

【学習を通じての児童の変容】

<p>○「学級のために」という視点で係活動について考えることで、自分が取り組んだ係活動が学級のみんなの役に立っていることを知り、学級生活についての意識が高まった。また、友達の活動に対しても、感謝の気持ちを持ち、言葉で「ありがとう」と自分の気持ちを相手に伝えられるようになった。</p> <p>○係活動は、必ず全員が一つの仕事を担い、一人一人が係の仕事や役割の責任を果たしていくことで、学級が円滑に運営できることを学んだ。みんなできよりよい生活をするために、仕事の内容を工夫する姿が見られるようになった。</p>

C 自己主張・自己決定 に視点をあてた指導事例（小学校 道徳）

第5学年 道徳

- ① 主題名 「自分のよさを伸ばす」 1-(6) 個性伸長
資料名 「グリム兄弟」(文溪堂「5年生の道徳」)

② 本時の目標

- 自分の特徴を多面的に捉え、自己を肯定的に受け止め、よいところを積極的に伸ばそうとする態度を育てる。

③ 主題設定の理由

この時期の児童は、自己を客観的に見つめる力が育ち始め、自分の特徴について少しずつ意識するようになってくる。同時に、友達と比べて自分の短所を気にする様子も見られる。そこで、自分のよさを改めて意識させ、自己を肯定的に受け止められるようにし、自分のよいところを積極的に伸ばそうとする心情を育みたいと考え、本主題を設定した。

本資料は、自分らしさを生かし、また互いの個性を尊重し協力し合って、「グリム童話」を完成させたグリム兄弟の話である。児童に親しみのあるグリム童話を題材として、個性が違うからこそ、互いの力を生かし、大きな目的を達成することができたという、心に響く構成になっている。

本学習を通して、誰もがよさをもっていることに気付かせ、自信をもち自分のよさを伸ばしていこうとする前向きな姿勢を育てる。また、自分が短所だと思っていることも、見方を変えれば長所と捉えることができるという視点をもたせ、自己をより肯定的に捉えたり、短所も素直に受け止め、よい面へと変えていこうとしたりする心情を育てていけるようにする。

なお、着目したい児童への指導の方向性としては、他者との比較ではなく、周りの友達からの言葉かけを促したり、その児童のよさを認める助言をしたりして、自分のよさを捉えることができるよう支援する。このように「C自己主張・自己決定」に視点をあてた手だてを講じることで、児童一人一人が自分の個性に気付き、それを伸ばしていこうとする意欲をもたせていきたい。

④ 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

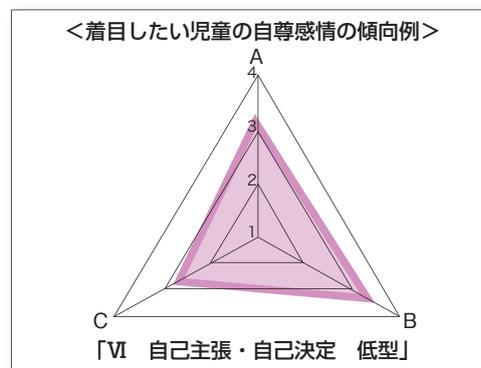
- 「グリム童話」が完成するまでの兄弟の考え方や行動をたどり、兄弟のそれぞれのよさに気付かせることにより、自分のよさに着目して考えることができるようにする。
- 「心のノート」(文部科学省 小学校5・6年 34ページ)を活用し、「よいところ変身カード」(指導資料 37ページ参照)を提示することにより、自分の短所と長所を含めて自分らしさであることを受け止められるようにする。

(特に重点にする観点と指導上の留意点…

【C自己主張・自己決定 ②個性の認知】)

⑤ 本時までの指導の流れ

- 自己評価シートを用い、学級全体や児童一人一人の自尊感情の傾向を把握しておく。



6 本時の指導（展開例）

	<p>学 習 活 動</p> <p>・ 予想される児童の反応</p>	<p>○指導上の留意点 ☆評価</p> <p>■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等</p> <p>□着目したい児童への指導の方向性</p>
<p>導 入</p>	<p>(1)「自分らしさ」とは何か考える。</p> <p>・ 明るい ・ 運動が得意 ・ 親切</p>	<p>○道徳的価値への方向付けをする。</p>
<p>展 開</p>	<p>(2)資料「グリム兄弟」を読んで話し合う。</p> <p>①ヤーコプとウィルヘルムの感想を聞いたおばあさんは何を不思議に思ったのか。</p> <p>・ 同じ話を聞いたのに感想が違うこと。</p> <p>・ 考え方や感じ方が違うこと。</p> <p>②ヤーコプはなぜ「しばらく」考えた後、「任せるよ」と言ったのだろうか。</p> <p>・ 弟が「けん命」に訴えてきたから。</p> <p>・ 空想することが好きなウィルヘルムだからきっとできると思ったから。</p> <p>③今でも世界中の子供たちに愛される「グリム童話」が完成したのはなぜか。</p> <p>・ ヤーコプが弟の力を信じて任せたから。</p> <p>・ それぞれが自分のよさを生かしながら、自分のできることを一生懸命やったから。</p> <p>(3)これまでの自分の生活を振り返り、「自分らしさ」、「自分らしさを生かして取り組んでいきたいこと」をワークシートに書き、発表する。</p> <p>・ 私はダンスが得意なので、将来は、みんなを楽しませることができるダンサーになりたい。</p> <p>・ 負けず嫌いな私なので、新しいことにチャレンジしていきたい。</p>	<p>○「グリム童話」の本を紹介し、児童に親しみをもつようにする。</p> <p>○兄と弟の性格や行動の違いについて、どのように違うのか話し合い、人には考えることや興味の違いがあることに気付くようにする。</p> <p>○初めは「首を横に」ふり、「書き直すなんて、もってのほか」だと思ったヤーコプの気持ちが変わっていった様子に着目し、弟のよさとともに、弟を認めた兄のよさにも考えを広げていけるようにする。</p> <p>○二人がどのように仕事を進めていったのか確認し、もしどちらかがいなかったとしたら仕事をやり遂げることができたか考えて、それぞれの個性を生かしたからこそ、成し遂げることができたことを感じられるようにする。</p> <p>■兄弟がそれぞれの個性を生かして「グリム童話」を完成させたことを振り返り、自分のよさについて考えられるようにする。</p> <p>【C自己主張・自己決定 ②個性の認知】 (⇒P.21)</p> <p>□周りの友達からの言葉かけを促したり、その児童のよさを認める助言をしたりして、他者との比較ではなく、自分のよさを捉えることができるようにする。</p> <p>(⇒P.15「VIタイプ」)</p>
<p>終 末</p>	<p>(4)教師の説話を聞く。</p> <p>・ 短所だと思っていたことも、見方を変えれば長所である。</p>	<p>■「心のノート」を活用し、「よいところ変身カード」を提示することによって、自分の個性を多面的に捉えることができるようにする。</p> <p>【C自己主張・自己決定 ②個性の認知】 (⇒P.21)</p> <p>☆長所も短所も含めて「自分らしさ」であるということに気付き、自分のよいところを伸ばそうとする意欲をもてたか。</p>

※(⇒)は指導資料のページ番号

【学習を通じての児童の感想や変容】

- 授業の導入では、「自分らしさ」について捉えられない児童がほとんどであったが、資料「グリム童話」の活用や「よいところ変身カード」、自分のよさに気付かせる教師や友達による助言などにより、終末の活動では「自分らしさの花」に記述することができ、自分らしさについて気付く児童が多くなった。
- 「自分らしさの花」には、「笑顔」や「元気」など、性格をプラスの側面にとらえたもの、「頑固」や「すぐにあきらめてしまう」など、性格をマイナスの側面で捉えたもの、「ダンスが得意」、「野球ができる」など、自分が得意とするもの、「発表が嫌い」、「食べ物の好き嫌いが多し」など自分が苦手とするもの、その他に自分が好きなものについての記述があり、児童一人一人が自分の内面に着目することができた。
- 「自分らしさを生かして取り組んでいきたいこと」には、「挨拶をいっぱいしたい」、「人を楽しませたい」、「いつも笑顔でいたい」、「物事をはっきり決めたい」など、今後の生活についての目標、生き方や将来の夢につながる記述が見られた。

7 資料

(1) 資料

グリム兄弟

「白雪姫」「ヘンゼルとグレーテル」などの「グリム童話」を、一度は読んだことがあるでしょう。この「グリム童話」は、今から二百年ほど前、ヤーコプ・グリムとウィルヘルム・グリムというグリム兄弟が、ドイツで語り伝えられていた童話をまとめたものです。

グリム兄弟の兄のヤーコプは、思いついたことは何でもすぐに実行したが、活発で少しがん固な性格でした。弟のウィルヘルムは、空想することが好きで、ひかえめでした。このように二人の性格は全く反対でしたが、おさないころから仲がよく、勉強するのも遊びに行くのもいつもいっしょでした。

二人は、同じ大学に進学して、そこでドイツに古くから伝わる法律や言葉、詩などに興味を持ち、いっしょに研究するようになりました。兄弟が昔話を研究し、本にしようと考えたのは、大学を卒業して間もなくのことでした。

「昔話の中には、はくちがまだ知らない、そこに住む人たちだけが持っている考え方がかくれている。それを研究したいと思うんだ。」兄のヤーコプが提案すると、弟のウィルヘルムも、喜んで賛成しました。

「昔話は、みんなのたから物です。わすれられないうちに、記録しておかなくては。」

こうして二人は、昔話を集め始めました。研究目的ですから、元の話に忠実でなければいけません。兄弟は、書物を調べるだけでなく、昔話を知っている人をさがしては、会って話をしてもらったり、書き送ってもらったりして集めました。

五年ほどたって、二人の昔話集の第一巻が出版されました。しかし、かた苦しい研究の本だったため、本はなかなか売れませんでした。それでも、二人は第二巻に向けて、昔話を集め続けました。

ある日、兄弟は、たくさんのお話を知っているフイーメンニンというおばあさんと知り合いました。おばあさんは、古い話をしっかりと覚えていて、とても話が上手でした。

二人は、おばあさんを何度も家に招いて昔話を話してもらいました。「……ということじゃったそうな。」

「うむ。おもしろいお話ですね、おばあさん。この話は、第一巻の六番目の話とよく似ているな。」

ヤーコプは、話を聞いて、すぐに今まで集めた昔話と比べ始めました。

「なるほど、気が付かなかった。でも、主人公は、どうしてあんなことをしたのか、気になるなあ。」

ウィルヘルムは、登場人物の気持ちを考え、周りの状況のようにいろいろ思いをめぐらせます。ひそかに、それを文章にまとめたことを考えていました。

おばあさんは、目を細めて二人を見比べました。「おやまあ。同じ話にしても、二人の感想はいつもバラバラ。不思議ねえ。」

話し相手にもめぐまれて、研究は順調に進み、やがて、第二巻も出版されました。しかし、相変わらず本は売れず、計画していた第三巻の出版を断念しなければなりません。

ある日、ウィルヘルムはヤーコプに相談しました。

「兄さん、昔話集を読みやすく書き直したいのですが。」

ヤーコプは、おどろいて首を横にふりました。

「どうして。はくちは研究のために昔話を集めているんじゃないか。書き直すなんて、もつてのほかだよ。」

「もつと、みんなに昔話を読んでもらいたいからです。」

ウィルヘルムは、けん命でした。

「むずかしい研究の本だからという理由で、昔話集が広まらないのは残念です。昔話を子供にも楽しめるように書き直したいのです。」

ヤーコプはしばらく考えていましたが、こう言いました。

「よし、分かった。任せよう。その仕事は、はくよりも君のほうが向いているからね。でも、元の話は正確に伝えるという目的をわすれちゃだめだよ。」

ウィルヘルムは、うなずきました。

「はい。読みやすくするための工夫はしますが、話を変えたりはしません。」

兄の許しを得て、ウィルヘルムは、さっそく作業に取りかかりました。

「いばら姫が、百年のねむりから覚めると、みんなも目覚めた。」

か……。みんながいっせいに目覚めるっていうのは、どんな感じだろう。」

ウィルヘルムは、心の中でその光景を思い浮かべ、ペンを取ります。

「子供が泣きだし、中庭の犬や馬が、飛び上がったかけ回り、ハトは飛びたちました。台所では、再びさわがしく料理がはじまりました。」

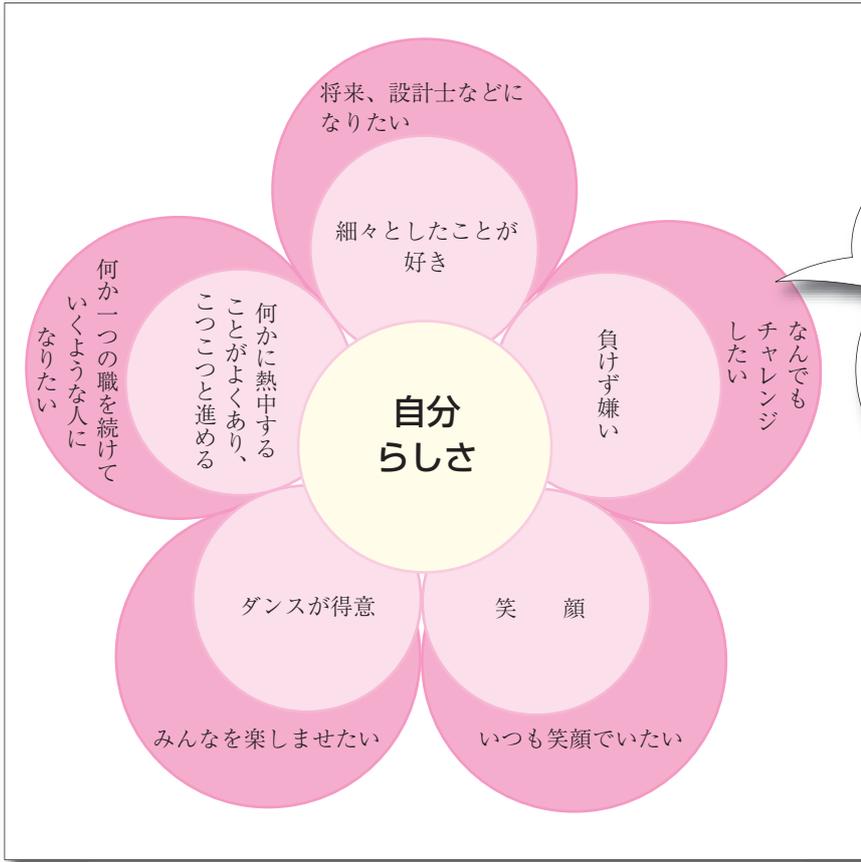
……。うん。これなら子供たちが、この様子を思いえがくことができるな。」

短くかんたんな文章だった昔話に、ウィルヘルムによって、次々と新しい命がふきこまれていきます。

兄のヤーコプは、その後も、新しい資料を見つけては弟に送ったり、ときどき元の話が分からなくなるほど書き加えてしまう弟に注意したりと、協力をおしませんでした。

こうして、昔話のおもしろさをもちながらも、子供たちに親しまれる「グリム童話」が作られてきました。そして、今でも世界じゅうの子供たちに愛されているのです。

(2) ワークシート「自分らしさの花」

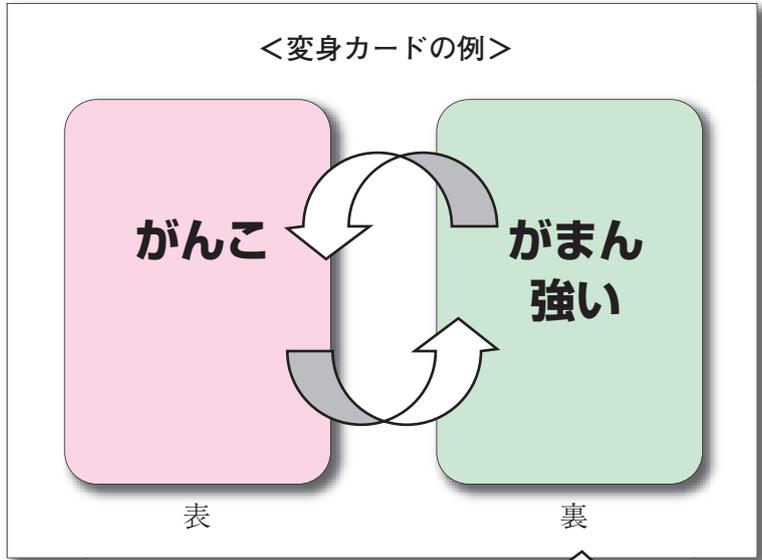


自分らしさについて考え、内側の花びらに書き込んでいく。外側の花びらには、その自分らしさを生かして取り組んでいきたいことを書き込んでいくようにする。

(3) 「よいところ変身カード」

「心のノート」(文部科学省 小学校 5・6年 34 ページ) を読み、自分にとっては嫌だと感じている面も、他人から見るとよさに映っているかもしれないこと、長所と短所は裏返しであると言われることなどを伝える。そして、自分らしさを多面的に捉え、自己をより肯定的に捉えたり、悪いところも素直に受け止め、よい面へと変えていこうとしたりする心情を育むようにする。

「心のノート」
(文部科学省 小学校5・6年 34ページ)
わたしは、すぐにひとつのことにこだわってしまって、ぬけ出せないことがある。そんな「がんこ」なところを直したいと思っていたら、友だちに「がまん強いね。見習いたいな。」と言われたのでおどろいた。自分で変えたいと思っていることも、少しは自分の役に立っているのかな。



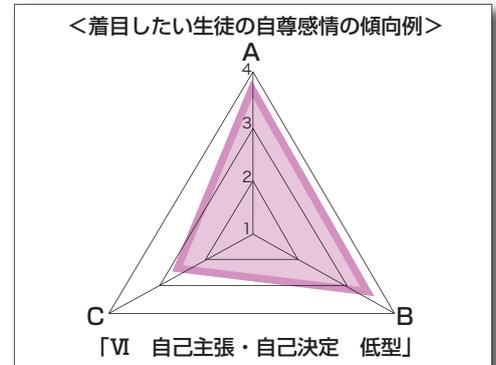
＜その他のカード例＞
 ・おしゃべり ↔ 明るくて話題が豊富
 ・おとなしい ↔ 聞き上手
 ・涙もろい ↔ 感じる気持ちが強い
 短所と長所をカードのそれぞれの面に書く。自分が短所だと思っていたことも裏返せば長所にもなるということに気付かせ、自分の個性を多面的に捉えることができるようにする。

第1学年 道徳

- ① 主題名 「自分をきたえる」 1-(5) 向上心、個性伸長
資料名 「ぼくの性格をつくった友人」 大林 宣彦 作

② 本時の目標

- ・自分の長所や短所について考え、それを自分の個性として受け止めるとともに、自分のよさを一層伸ばしていこうとする態度を育てる。



③ 主題設定の理由

小学校高学年から中学校にかけては、自分を客観視することができるようになり、自分自身の生き方などへ関心が高まる時期でもある。自己理解を深めながら、自分の個性について考え始めるのもこの頃である。しかし、その際に他者との比較において自分を捉えてしまったり、短所や欠点の方に注目してしまったりする傾向も見られる。小学校第6学年から中学校第1学年にかけて、自尊感情が大きく低下してしまう要因の一つとして、このような背景があることが挙げられる。

本資料は、自分の性格を人見知りや引込み思案であると思っていた筆者が、あるとき、友人との会話を通し、全く違った視点で自分を捉えることができるようになり、その後の生き方にも大きな影響を与えたという内容である。自分の欠点や短所ばかりが気になり、自分に自信がもてない生徒たちにとって、前向きな生き方の示唆になると考える。また、この資料を基にして、自分の長所や短所について改めて考えると同時に、短所も含めて自分の個性として受け止め、長所を伸ばしていこうとする態度を育てることができると考え、本主題を設定した。

着目したい生徒への指導の方向性としては、長所も短所も自分の個性として受け止められるよう、他者と比較するのではなく、短所に対して自分なりにどう取り組んでいくかということを大切にすよう助言していく。このように「C 自己主張・自己決定」に視点をあてた手だてを講じることで、自分のよさを一層伸ばしていこうとする態度を育てたい。

④ 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

- ・自分の短所を違う視点で見ることで自分自身を見直すことができるようになった筆者の姿を通して、自分の長所と短所を含めて自分らしさであることを受け止められるようにする。

（特に重点にする観点と指導上の留意点…【C 自己主張・自己決定 ②個性の認知】）

⑤ 本時までの指導の流れ

- ・生徒の自尊感情の傾向を把握するために、自己評価シートを用いて事前に調査を行う。

6 本時の指導（展開例）

	<p>学 習 活 動</p> <p>・ 予想される生徒の反応</p>	<p>○指導上の留意点 ☆評価</p> <p>■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等</p> <p>□着目したい生徒への指導の方向性</p>
<p>導 入</p>	<p>(1)自分はどんな人間であるか自己を振り返り考え、「自分は○○な人です」の○○に当てはまる言葉をカードに記入する。</p> <p>(2)記述の内容を「長所」「短所」に整理し、その内容を見て感想を述べ合う。</p>	<p>○生徒の記述には短所を書いているものが多いと予測される。短所で自分を表現している生徒がいることをおさえた上で、読み物資料に進むようにする。</p>
<p>展 開</p>	<p>(3)資料「ぼくの性格をつくった友人」を読んで話し合う。</p> <p>①自分を「人見知りだ」と言った友人の話を聞いて、はっと胸を打たれたときの筆者の気持ちを考えてみよう。</p> <p>・ 明るく誰とでも話せるのに、ぼくと同じように人見知りとはびっくりだ。</p> <p>②友人の話を聞くまで、ひとりぼっちなのはぼくだけではないことになぜ気付かなかったのだろう。</p> <p>・ 自分のことも友達のこと勝手に決めつけていた。</p> <p>③筆者がより広い世界に旅立つ決意ができたのはどのような気持ちからだろう。</p> <p>・ 他人の中に飛びこんで自分の心を見つめていこうとする気持ち。</p> <p>・ 自分自身を見つめ直していこうとする気持ち。</p> <p>④自分自身を見つめ直すことは、どうして大切なのだろう。</p> <p>・ 自分をよく知ることによって自分を伸ばしていくことができるから。</p> <p>(4)自分の長所と短所を踏まえて、どのように自分を伸ばしていくかを考える。</p>	<p>○心の殻に閉じこもっている自分に気付かされた筆者の気持ちをおさえる。</p> <p>○自分の短所を知らながらどうしてよいか分からず、自分の中で都合よく納得していたこれまでの筆者の心情をおさえる。</p> <p>○友達の姿から、今の自分に足りないものを見つめ、受容した上で、自分を伸ばしていきたいという気持ちに至ったことに気付かせる。</p> <p>○筆者が自分自身を見つめ直したことで、広い世界に旅立つ決意ができたことをおさえる。</p> <p>■自分の長所をどのように伸ばすか考えさせるとともに、読み物資料を踏まえ、自分の短所とどのように向き合っていくか記述させるようにする。 (⇒P.21)</p> <p>□他者と比較するのではなく、短所に対して自分なりにどう取り組んでいくかということを大切にして記述させるようにする。 (⇒P.15「Ⅵタイプ」)</p> <p>○自分を伸ばしていこうとする前向きな記述を取り上げ、名前を挙げずにいくつか紹介する。</p>
<p>終 末</p>	<p>(5)活動を通して、考えたことや感じたことをワークシートに書き、発表する。</p> <p>(6)教師の説話を聞く。</p>	<p>■自分の短所と長所を含めて自分らしさであることを受け止められるようにする。</p> <p>【C 自己主張・自己決定 ②個性の認知】</p> <p>(⇒P.21)</p> <p>☆自分の長所や短所を受け止め、自分のよさを一層伸ばしていこうとする態度をもつことができたか。</p>

※(⇒)は指導資料のページ番号

【学習を通じての生徒の変容】（振り返りカードの記述より）

○「自分自身を見つめ直すことはなぜ大切なのか」という発問に対して「自分を見つめ直すすと、良いことや悪いことを見つげられるかもしれないから。」「自分自身を見つめ直すことで、前に進むことができるから。」というように、自分自身を見つめ直すことが、自分を伸ばしていくために必要なことであると捉えている記述が多く見られた。

○学習後の感想には、自分の長所や短所に注目しながら、それを前向きに捉えて伸ばしていこうとする記述が多く見られた。

（生徒の感想）

- ・自分らしさというのはとても大切なことだと改めて思いました。自分と向き合うこと、信じることを大事にしたいです。
- ・自分を信じる、自分も好きになることは一番大事なんだということがよく分かりました。自分に対して素直に、明るく元気に、前向きに生きていこうと思います。



このことから考えてみると、損な性格というのは、自分だけがさびしいのだ、と考える、自分本位の考え方。得な性格というのは、さびしいのはみんななのだ、と考えられる心を持つこと。
そして、そういう損も得も、どちらも他人の故ではない。自分で決意することなのだ。

自分も他人も同じ痛みをそれぞれに心の中に持っているのだと知るところから、他人に対する優しさも、いたわりの心も、共感も生まれ、そして自然に誰からも好かれる人間にもなっていくのである。

大人になってから、三十年ぶりにぼくは小学校時代の同窓会に出席した。昔、ぼくの友だちであったその子にも久びさに会えるかと楽しみにしていたのだが、その友人は数年前、交通事故で亡くなったのだと聞いた。そこで、ぼくは当時の級友たちに、彼のかくされたさびしさと、それを伝えるエピソードを語って聞かせた。

すると、驚いたことに当時の彼をとりまいていた、同じように陽気で元気のよい連中が、口をそろえて、

「そっだよ。あいつはさびしい奴だったよ。だってよく、ふとそんな顔をしていたじゃないか。オレたち、みんなそれを知っていたから、あいつとはむしろ、むやみと陽気につき合っていたんだぜ。だから君があいつと友だちになってやってくれて、オレたちよろこんでたんだよ。」

さびしいのは自分だけだと思って過ごしていたぼくは、結局、ひとのさびしさを思いやることのできない、本当に孤独で嫌な子どもだったろう。その心を開いてくれた遠い日のあの子のことを思いながら、ぼくは勇気を持って、ますます他人の中へ、広い人間世界の中へ、自分のさびしい心の生んだ言葉をみがいて、語りかけ、語りかけていこう、と決意を新たにしたのである。

引用出版 「中学生の道徳 自分をみつめる」

出典 「ぼくの性格をつくった友人」 廣済堂あかつき株式会社

「PHP」平成三年九月号 PHP 研究所刊

作者 大林宣彦

7 資料

ぼくの性格をつくった友人

大林宣彦

ぼくは、子どものころから、たいへん、ひとみしりをするたちで、ひと前
に出るよりは、ひとりきりでいた方がいい。学校の教室などでも、ハイ、ハイ
と手を上げて、われ先に自分の意見を言える子たちを見ても、ぼくにはとて
もあんなふうには真似できない。だから、自分のことを、なかなか他人に伝
えたり、分かってもらえなくて、悲しい思いや、傷ついたりすることも多く、
ああ、なんて、ぼくは損な性格に生まれついたんだろう、とわが身が腹立た
しく、くやしく思ったことも一度ならずあった。

しかし、それでも、ぼくはぼくであって、他人になることはできないのだ
から、ぼくはなぜそうなんだろう？なぜぼくは、ひとみしりなんだろう？と
いつも考え、考え、暮らしていた。

そのうちにだんだん分かってきたことがある。

それは、クラスの中でも、特に明るくて、ハキハキしていて、元気のよい、
ぼくとはまるで反対の性格を持っているとしか考えられない、ある子と友だ
ちになってからである。

その友だちになったきっかけというのが、ある雨の放課後、音楽教室に残っ
てピアノのレッスンをしていたぼくが、ひとり帰ろうと表に出たとたん、雨
の中ぼつねんと立っている、その子に出会ったのだ。

いつも皆の前で見せるあの快活な姿はどこにもなく、妙にしよんぼりと、
さびしそうだった。

「どうしたの？」と聞くと、恥ずかしそうに、にっと笑って、「君のピアノ、
上手だなあ」というのである。見ると、目に涙を浮かべている。

それから帰り道、ふたりで肩を並べて歩きながら、その子が話してくれた
のは、その子の家庭の、お父さんやお母さんやの、何やらむずかしい、でも
とても悲しい物語だった。

「そんなオレの、たったひとり気持ちの通う家族は、姉ちゃんだけだな、その
姉ちゃん、もう長いこと病気で、死にかけてる。」

その悲しみを他人に知られたくなくて、その子はいつも、明るく明るく、
ふるまっているのだという。

「オレって、なかなか、ひとに自分のこと正直に見せるの、下手だから。…きよ

①

うはよかった。君のピアノ聞いているとね、君にだけは分かってもらえるん
じゃないかと、ごめん。オレ、なにしろ、ひとみしりだから。」

あんなに元気で、ハキハキと、誰とでも明るく話すことのできる子が、自分
をひとみしりだ、という。そのときぼくは、はっと胸を打たれたのだ。

ひとりぼつちは、ぼくだけじゃないのだ、と。

ひとは誰でも、じつはさびしくて、ひとりぼつちで、ひとみしりなのだ。

それはきつと正直な自分、ありのままの自分を、他人に分かってもらうこと
がどんなにむずかしいか、そのことを誰もが、心の中ではよく知っているか
らなのだろう。

そのことに臆病になると、子どものころのぼくのように、まったく他人に
自分を伝えようと努力しない。引っこみじあんのひとみしりとなる。

また、いまの話の子のように、本当の自分を隠して、他人にはうその明る
さを見せながら、仮面の下で傷ついている、いわば突撃型のひとみしりもいる。

果たしてどちらが本当に、さびしいのだろう。

きつとそれは、その子の方がさびしいのちがいない。なぜなら、少なく
ともぼくは、そのさびしさを自ら保護して、自分だけであまやかして、なく
さめている。ぼくはぼくであると自分で納得している。そのかわり、きつと
他人から見ると、暗い、嫌な子だったにちがいない。

ところが、その子は少なくとも他人から見れば、陽気で、楽しくて、気持
ちのよい子だ。当然誰からも好かれて、人気者にもなる。そのかわり、ぼく
はぼくだ、と自ちなくさめる自分をも、他人に奉仕してしまっている。

「オレな、きょう初めて、友だちができたって思う。ありがとう。うれしかっ
たよ。」

こういつて降りしきる雨の中を、いつもの元気な後ろ姿で駆け去っていつ
た彼。

突撃型で、さびしくても、悲しくても、傷ついても、他人の中に入って行
こうと努力する彼だから、その日、こうして、まるで疾風のように友情まっ
しぐら、ぼくの棘を刺しつらぬいていったのだ。彼はこうして、ぼくという
友だちを得た。しかし、引っこみじあんのぼくだったら、こういうほんとう
に友だちになり得る子をも、その子の本質を誤解したまま、その横を通りす
ぎていつてしまっただろう。

その子からぼくが学んだことは、だからこういうことだ。

こうしてぼくは、より広い世界の中に、旅立つ決意をしたのである。

②

A 自己評価・自己受容 に視点をあてた実践事例 (中学校 道徳)

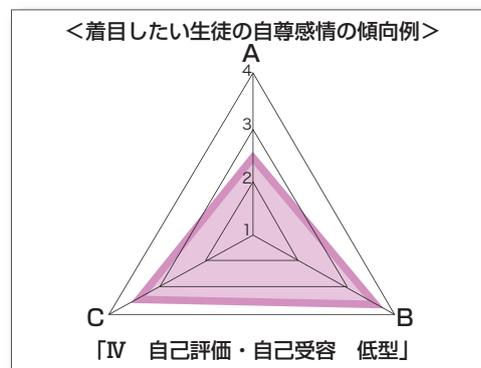
第3学年 道徳

1 主題名 「よさの発見」 1-(5) 向上心、個性伸長

資料名 「吾平と久作」 鴨井 雅芳 作

2 本時の目標

- ・ 自己のよさを生かすことが充実した生き方につながることに気付かせ、自己のよさを発見し、それを大切にする態度を育てる。



3 主題設定の理由

中学生になると、自己理解が深まり、自分なりの生き方についての関心が高まってくるが、自分に自信がもてず、友達との関わり方や進路の問題など様々な悩みをもち、日々の生活に充実感をもてない生徒も少なくない。これは他人との比較で、自分の短所や欠点ばかりが気になり、自分のよさを見失うことが原因の一つとして挙げられる。人にはそれぞれのよさが必ずある。それを発見し、大切にすることは、今後の充実した生き方につながると考えられる。

本授業では、「吾平と久作」という資料を通して、生徒が自己のよさを生かすことの大切さに気付くことができるようにする。さらに、生徒同士で互いのよさを見付け伝え合う活動を通して、自分自身では気付かなかった自分のよさを知り、それを大切にする態度を育てることで自尊感情を高めることができると考え、本主題を設定した。

また、着目したい生徒への指導の方向性としては、自分のよさを実感できるようにするため具体的な場面を捉えてその生徒のよさを伝えるようにしていく。このように「A自己評価・自己受容」に視点をあてた手だてを講じることで、自分のよさを発見し、それを大切にする態度を育てるようにしたい。

4 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

- ・ 吾平が絶望から抜け出し、生きがいを感じられるようになった要因について考えることを通して、自分のよさを発見し、それを大切にできるようにする。
- ・ 友達と互いのよさについて伝え合う活動を通して、自分のよさを肯定的に認められるようにする。

(特に重点にする観点と指導上の留意点…【A自己受容・自己評価 ④よさの気付き】)

5 本時までの指導の流れ

- ・ 生徒の自尊感情の傾向を把握するために、自己評価シートを用いて事前に調査を行う。



6 本時の指導（展開例）

	<p>学 習 活 動 ・ 予想される生徒の反応</p>	<p>○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等 □着目したい児童への指導の方向性</p>
<p>導 入</p>	<p>(1)自分はどんな人間であるか、自己を振り返り考える。 ・ 私はよく笑う明るい人です。 ・ 私はマイナス思考で消極的な人です。 ・ 私はやりたいことはとことんやる人です。</p>	<p>○今までの学校や家庭での生活、人から言われたことなどを振り返り、具体的に挙げたものをワークシートに書かせる。</p>
<p>展 開</p>	<p>(2)資料「吾平と久作」を読み、話し合う。 ①破れたりほつれたりした網を繕わされているときの吾平の気持ちを考えてみよう。 ・ 失敗ばかりして、親方や久作に迷惑をかけているからしかたない。 ・ いつかは久作みたいになって、みんなに認められたい。 ②再び漁に出ることを許された吾平の気持ちを深く考えてみよう。 ・ 大好きな漁に再び出られてうれしい。 ・ みんなに自分の仕事を認められてうれしい。 ・ 立派な漁師になるぞ。 ・ 網をこつこつ繕ったかいたがあった。 ③吾平が絶望から抜け出し、生きがいを感じるようになった要因について考えてみよう。 ・ 自分のよさを見付けることができたから。 ・ 自分の仕事に自信をもてるようになったから。 (3)友達のよさを考える。 (5～6人の班になり、班員の長所をその人のワークシートに記入する。) (4)友達の記述を読み、自分のよさについて考える。</p>	<p>○今は、仕方がないと思いつつも、将来に希望をもっていることに気付かせる。 ○これまでに下働きをしていたことや、久作が活躍していることに着目することで、再び漁に出ることの喜びをおさえられるようにする。 ■吾平が絶望から抜け出し、生きがいを感じられるようになった要因について考えることを通して、自分のよさを発見し、それを大切にできるようにする。 【A自己評価・自己受容 ④よさの気付き】 (⇒P.21) ○その生徒の今までの行動などを振り返り様々な角度から考えさせる。 ■友達と互いのよさについて伝え合うことを通して、自分のよさを肯定的に認められるようにする。 【A自己評価・自己受容 ④よさの気付き】 (⇒P.21) □具体的な場面を捉えて友達のよさを伝え合うようにすることで、自分のよさに気付くようにする。 (⇒P.15「IVタイプ」)</p>
<p>終 末</p>	<p>(5)活動を通して、考えたことや感じたことをワークシートに書き、発表する。 (6)教師の説話を聞く。</p>	<p>☆自分のよさを発見し、それを大切にしようとする態度をもつことができたか。</p>

【学習を通じての生徒の変容】（振り返りカードの記述より）

- 友達よさを見付ける活動では、「人が嫌がることでも自分からやってくれ頼りにできる。」「自分の意見をしっかりもっている。」「心が優しく皆からの信頼が厚い。」「元気で、どの友達にもとけこめる。」などの記述があった。日常の行動や発言を振り返り、たくさんの友達よさに気づき、伝えることができた。
- 「自分にとっての短所も違う見方をすれば、長所になると思った。自分の長所も短所も人のために生かしていきたい。」「得意なことを積極的にやり、不得意なことでも“得意”になるように努力したい。」「みんなからのコメントを見て、自分に、自信がもてる長所があってよかった。」というように、友達からよさを伝えられて素直に喜ぶとともに、自分のよさに気づいて自信を深めている記述が多く見られた。

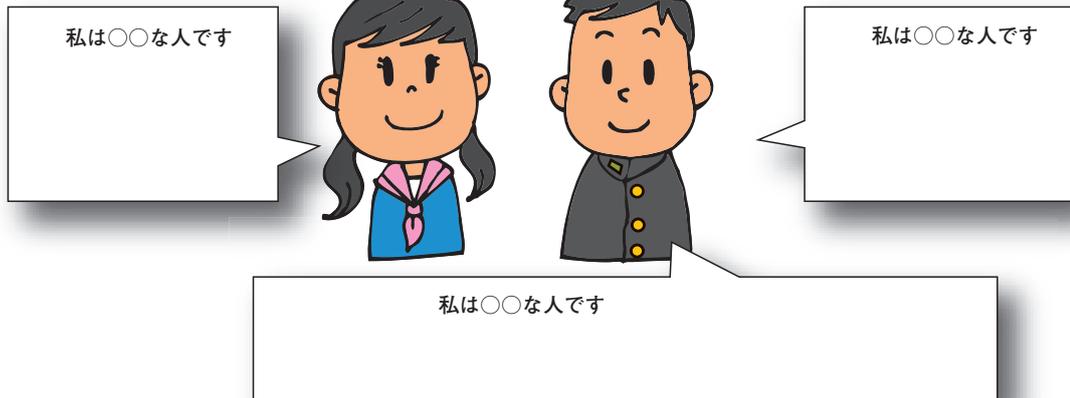
7 資料

(1) ワークシート「よさの発見」

『よさの発見』ワークシート

年 組 名前

1 「私は〇〇な人です」を書きましょう。



2 グループの友達に回して友達の良いところを書いていきましょう。

(例) 〇〇君は、自分では怒りっぽいと思っているようですが、私は、正義感がある強い人だと思います。

(例) ◎◎さんは、休み時間にけがをした△△さんを助け、すばやく保健室に連れて行ったのを見て、いざという時の行動力があると思いました。

あなたの良いところは〇〇なところです	書いた人の名前

(2) 資料

吾平と久作

鴨井雅芳

鳥羽の沖合に答志島という小さな島があります。夜明けのころには、海を黄金色に染めて、それはもう朝焼けのきれいな島です。むかしこの島に吾平と久作という若い衆がおりました。島の生活は貧しかったのですが、魚は豊富でしたので、若い衆はみんな漁師をめざして、沖に出ておりました。吾平と久作も早く一人前の漁師になろうと親方の舟に乗りこんでいたのです。

「久作、どの辺で網を引くのがいいかのう。」

「潮の流れが早うなってきたのでこのあたりでしょう、親方。」

久作の言った通りに網を引くときままって大漁でした。今では、親方も久作の勤にたよって漁をするほどです。村の衆は久作の乗った舟を首を長くして待っているのです。

一方、吾平ときたら、海に出るのが三度のめしより好きなくせに、一向に漁の腕が上がりません。漁に出て、親方に怒られない日は一日もありませんでした。

「吾平、早う網を引かんかい。また魚に遊ばれておる。おまえなんかは魚に食われてしまえ。」島にもどつたらしつかり網の補修をしておくんだぞ、いいな吾平。」

舟が島につくと、破れたり、ほつれた網を繕わされるのは、きまつて吾平です。しかし、吾平はしかたのないことだと思っていました。早く手柄をたてて、親方や久作、島の衆に認められたい。そんな一心でこつこつ網を繕っていました。

つぎの日、吾平はいつもより早く起きて、船出のしたくをしておりました。ところが、いつものきれいな朝焼けではありませんでした。空はどんより曇り、なにかいやな予感のする朝でした。「吾平、網はだいたいようぶやろうな。」久作は吾平に声をかけると、すぐさま親方のほうへ歩み寄り、なにやらひそひそ話を始めました。「親方、おらあもうこりこりや。もう吾平と舟には乗らん。吾平ときたら人の足を引つ張るばかりや。あんな使えんやつがいなかつたらもつと魚いっばい捕れますよ。」

その日、親方、久作、吾平は無言のまま網を引いておりました。すると、みるみる黒い雲が空を覆い、今にも大粒の雨が降り出してきそうです。だんだん風も強くなり、波も高くなってきました。三人は急いで網を舟に引き上げようとした。その時です。高い波がやってきて舟が大きくぐらつと揺れました。その瞬間「ドボン」と大きな音がしました。吾平が海へ落ちてしまったのです。

吾平は網につかまり、何とか引き揚げられたのですが、魚は一匹も舟に揚がりませんでした。ずぶぬれになって、舟の隅で小さくなっている吾平をにらんでいた親方の顔は、みるみる赤くなっていきました。

「おめえなんかもういらん。明日から舟に乗らんでええ！」

それから吾平は来る日も来る日も遠くに沈む夕日をながめては、親方と久作の舟を待っているのです。傷んだ網を繕うためです。海へ出たくても出られない吾平は、日に日に元気をなくしていくのでした。

遠くに小さく見えた舟はだんだん大きくなり、久作の舟は村の歓迎を受けながら岸につきました。だれもが大漁を喜んでいました。が、吾平にとつて大漁はちつともうれいことではありませんでした。久作が誇らしげに舟を降りてきます。「吾平、きようは大漁や。おらの勘があたつてな、それはもうすごかった。網の上で魚が踊つておったわ。網がだいぶ傷んでおる。しつかり繕つておけよ。」吾平は久作と目を合わせないようにしながら、すぐに網の補修にかかりました。その日はいつになく夜更けまでかかつてしまい、やつとの思いで網を繕い終わったその時です。吾平はぶるぶる震えだし、とうとう熱を出して寝込んでしまいました。

つぎの日は吾平に代わつて、久作が網を繕つておりました。吾平のやつ、なにをやらせても使えん。熱なんか出しおつて。これでよし。夕日がきれいや。明日は大漁日和だ。久作はなにやら、ぶつぶつ言いながら網を繕つておりました。

つぎの朝、久作の思った通り、漁にはもつてこいの上天気でした。「大漁や！これはすごい。初めてや、こんな大漁は。」親方は興奮しながら、夢中で網を引いておりました。親方と久作は最後の力を振り絞つて網を舟に引き揚げようとした。すると、どうしたことでしよう。魚は全部網から逃げてしまったのです。舟に引揚げられたのは網だけでした。久作が繕つたところが全部ほどこしてしまったのです。親方も久作も何が起つたのかさっぱりわからず、力がぬけたままその場に立ちすくんでおりました。

それからというもの、吾平の網の繕いの確かさは鳥じゅうで評判になりました。吾平はみんなに認められ、すっかり元気を取り戻していました。一方、久作は吾平にすまない気持ちでいっぱいでした。魚がいっぱい捕れたのも、吾平のかけの力があつたからこそと思ひ知らされていたのです。

吾平と久作は再び、一緒に親方の舟に乗りこんでいました。吾平は久しぶりになる海に興奮をかくせません。船首に立った吾平の顔は黄金色の朝日に輝き、自信に満ちあふれていました。

それから、ふたりはお互いに認め合い、協力し合い、大漁に次ぐ大漁の日をむかえたということです。吾平と久作の二人組のことは、いつまでも島に語り継がれました。

引用出版 「道しるべ3年 中学生の道徳」 正進社

作者 鴨井 雅芳

個別の教育相談に活かす実践事例（中学校）

中学校（第1学年）三者面談（学級担任、生徒、保護者）

1 実施時期 7月（夏季休業日前や夏季休業日中に実施）

2 目的

- ・中学校に入学してからの生徒の学習の様子や生活の様子について、教師、保護者、生徒の相互理解を深め、2学期（前期後半）以降の指導に役立てる。
- ・生徒自身の自己理解を促すとともに、今後の生活や進路への希望や意欲をもたせる。

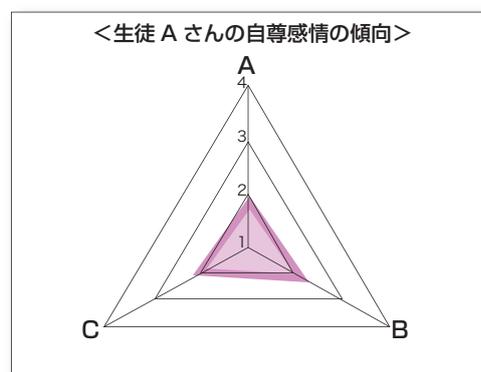
3 事前準備

- ・1学期（夏期休業前）までの生活や学習の記録及び成績一覧
- ・自己評価シートの実施及び自尊感情の傾向結果
- ・本人が回答した自己評価シート 等

4 生徒Aさんの自尊感情の傾向

～教師から見た評価と異なる傾向の事例～

Aさんは学級担任からは、いつも元気があり、明るく快活に見られる生徒である。話すときの声も大きく、はきはきとしている。やるべき課題も最後までやり遂げる生徒であるため、教師からはAさんが自信のある子供のように見えていた。また、部活動にも所属しており、積極的に活動しているようにも見られた。しかし、自己評価シートから自尊感情の傾向を調べると、自分に対する評価が観点別からも全体的にも低いことが分かり、三者面談の際に配慮したい生徒である。



5 面談の実際例

担任 「学校生活の様子ですが、Aさんは、いつも明るく学校でも元気に活動しているように見られます。部活動も頑張っているようですね。Aさんは何か気になっていることはありますか？」

生徒A 「特にはありません。部活も楽しくやっています。勉強の方は、苦手な教科があるのでそれを頑張らないといけないと思っています。」

保護者 「家ではほとんど勉強しているようには見えません。また、あまり自分のことや学校のことを家では話さないの、学校でどんなふうにご過ごしているのかは気になっていました。」

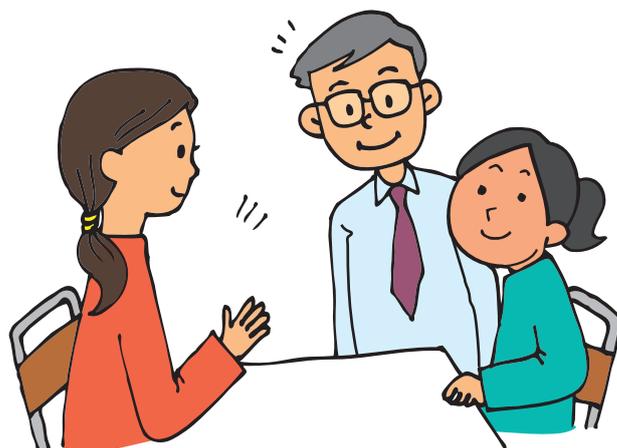
担任 「教科の学習は、国語や英語を頑張っているようでしたね。自分で苦手と感じているのはどの教科ですか？」

生徒A 「数学のテストの結果がよくなかったし、解き方が分からないときもあり苦手です。」

担任 「なるほど。では、今それを克服するために何か努力していること、取り組んでいることはありますか？」

生徒A 「特別に何かやっていることはありません。」

担任 「私から見るとAさんは元気で明るいし、今のように自分が課題としていることも話せるので、安心していましたが、先日とったアンケート（自己評価シート）を見ると「自分にはよいところがあるか」や「自分の個性について」など、Aさん自身は自分のことをあまりよいと思っていない傾向があったのですが、それについては自分ではどう思っていますか？」



生徒A 「自分によいところがあるとは思わないし、よく分かりません。他の人のように特に勉強ができると思っていないし、部活でも上手くいかないことの方が多いです。」

担任 「さっきもお話しましたが、『元気があって明るいところ』はAさんのいいところで周りを明るくしてくれると思っていますよ。他の先生方への挨拶もしっかりできるし、きまりを守って行動しているので見ているととても気持ちがいいです。部活動で上手くいかないことの方が多く感じるのは、目標を高くもっていて、それを達成させるために頑張っているからじゃないかな。ご家族の方から見てどうですか？」

保護者 「友達との関係は悪くなさそうですが、確かに自分ができないことへの不平や不満をもっていると、態度を見ていて感じることはありました。家でも注意することが多くなっていて長女なので、つい『お姉さんなんだから我慢なさい』などと言うことが多くなっていました。」

担任 「Aさんが自分によいところがあると思っていなかったことに気付いて、私ももっとAさんの話を聞いたり、努力しているところを見ていったりして、声をかけていきたいです。とても前向きに取り組む面をもっているお子さんですので、ご家庭でも認めてあげてください。Aさん自身も、できない自分より、まず『今日できたこと』に意識を向けていくといいと思います。」

※ …ポイントとなる語りかけ

【面談後の生徒の様子やその後の指導の方向性】

Aさんの自分に対する評価は、まだ低い傾向にあるが、自分に合った課題意識をもち、苦手なことについても最後まであきらめずに取り組もうとする姿勢が見られるようになった。

Aさんが努力している具体的な場面や過程を見逃さず適切な場面で認めたり称賛したり（23ページ参照）し、その後も継続的にAさんの気持ちを把握するように配慮したい。

4

高等学校における実践事例

B 関係の中での自己 に視点をあてた実践事例（高等学校 特別活動）

第1学年 ホームルーム活動 活動内容（2）

1 題材名 「好きな言葉」

2 題材の目標

- 好きな言葉について友達と考えを交流する活動を通して、自分や友達への理解を深めるとともに、様々な考え方があることに気付き、それを認められるようにする。

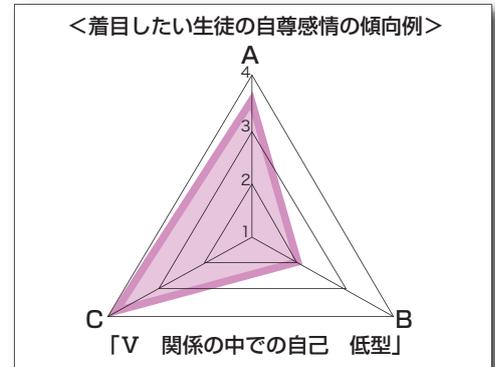
3 題材設定の理由

本題材は、「ホームルーム活動 内容（2）適応と成長及び健康安全 イ 自己及び他者の個性の理解と尊重」にあたる活動である。

この時期の生徒は、自主性をもって意欲的に生活を送っている生徒も多いが、対人関係を築くことに不安を抱いており、友達との関わりをもとうとしない生徒や、自分に自信をもてず、学校生活の様々な活動に対して消極的な生徒も見られる。

本題材では、歌詞や名言などから好きな言葉を選び、好きな理由を考え発表する活動を行う。思春期にある生徒たちは、鋭い感受性で歌詞や物語のせりふなどに強く惹き付けられることがある。自分の心に響く言葉に焦点をあてることで、意識していなかった自分の考えや思いに気付き、その言葉から自分へのメッセージを受け取ることができる。また、友達の選んだ「好きな言葉」を知り、自分の考えと比較したり共感したことを伝えたりすることは、互いを理解することにつながる。こうした活動を通して、多様な人との関わりをもち、様々な考え方や行動の仕方があることに気付くことができると考え、本題材を設定した。

また、着目したい生徒への指導の方向性としては、感想を伝え合うことができるように、友達のカードを読んで、付箋紙に感想を記述するなどして指導者が声をかけ、友達との関わりを十分にもてるようにする。このように「B 関係の中での自己」に視点をあてた手だてを講じることで、様々な考え方があることに気付き、それを認められるような態度を育てていきたい。



4 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

- 歌詞や名言などから好きな言葉を選び、好きな理由を考え発表する活動を通して、自己への理解を深めるとともに、様々な考え方や行動の仕方があることに気付き、それを認められるようにする。

（特に重点にする観点と指導上の留意点…
【B 関係の中での自己 ①他者理解】）

5 本時までの指導の流れ

- 生徒の自尊感情の傾向を把握するために、自己評価シートを用いて調査を行う。
- 「好きな言葉」を選んでおくことを事前課題として設定する。



6 本時の指導（展開例）

	<p>学 習 活 動</p>	<p>○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等 □着目したい生徒への指導の方向性</p>
<p>導 入</p>	<p>(1)教師が提示した歌詞を見て、好きだと感じる言葉を選び、友達とその理由等について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ここでは、生徒がよく知っていて、前向きな気持ちになれるような歌を2曲提示した。 </div>	<p>○一人一人が様々な考えで好きな言葉を選んでいることを取り上げ、そのよさを認める。</p>
<p>展 開</p>	<p>(2)事前課題で考えてきた、歌詞の一部や名言などの「好きな言葉」を紹介し合い、意見を交流する。</p> <p><意見交流の手順></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「好きな言葉」をカードに記入する。 ・記入したカードを模造紙に貼る。 ・互いのカードを読み合う。 ・友達の書いたカードの中で共感できるものについて感想を発表したり、付箋紙に感想を書いて友達のカードに添付したりする。 <p><カード></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「好きな言葉」</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; margin-bottom: 10px;"></div> <p>作品名_____（歌手・作者名_____）</p> <p>好きな理由</p> <p>_____</p> <p>_____</p> </div>	<p>○好きな言葉が思いつかない生徒には、あらかじめ教師が準備してきた名言集や歌詞などを提示するようにする。</p> <p>■カードを読み合い、感想を伝え合う活動を通して、一人一人が様々な考えをもっていることに気付き、それを認められるようにする。</p> <p>【B 関係の中での自己 ①他者理解】 (⇒P.21)</p> <p>□口頭で感想を伝え合うことに消極的な生徒にも、友達のカードを読んだり、付箋紙に感想を記述したりすることで、友達との関わりを十分にもてるようにする。 (⇒P.15「Vタイプ」)</p> <p>○自分や友達への理解を深めたことが分かる記述を取り上げ、学級で紹介する。</p>
<p>ま と め</p>	<p>(3)今日の活動を振り返り、自分や友達について発見したことや思ったことなどについて「振り返りシート」に記入する。</p>	<p>☆友達の様々な考え方を受け止め、感想を伝えることができたか。</p>

※(⇒)は指導資料のページ番号

【学習を通じての生徒の変容】

- 「みんな感受性が豊かだと思った。どれも人が生み出した言葉であって、言葉がもつ力のすごさも分かった。」「自分の好きな言葉に他の人も共感してもらえてよかった。」というように、友達の記述に対して共感している記述や、共感してもらうことで自信を深めている記述が多く見られた。
- 自分の思いや考えを表出することに消極的だった生徒が、歌詞や名言を通して自分の気持ちを表現したり、友達の意見に共感したりする様子が見られた。

C 自己主張・自己決定 に視点をあてた実践事例（高等学校 特別活動）

第3学年 ホームルーム活動 活動内容（3）

1 題材名 「求め、求められて生きていく」

2 本時の目標

- ・雇用主の立場に立って求人条件を考え、模擬面接を行い、これらの活動を通して、仕事や社会人に必要な資質や能力について考え、今の自分を見つめながら、今後自分をどのように伸ばしていくかを考える。

3 題材設定の理由

多くの高校生にとって、第3学年は自分自身に向き合い、卒業後の進路を決定していく時期である。高等学校に入学するときと比べ、卒業後の進路選択の幅は大きく広がり、就職、進学いずれの場合においても様々な職種、校種、専門の中から進路を選択することになる。生徒は具体的に目標を立て行動していくが、その目標を達成していくためには、今の自分を見つめ、自分の可能性をさらに伸ばしていこうとする態度を育てることが必要である。

本題材では、生徒はある会社の経営者になり、その立場から従業員を雇うための求人広告を考える。その後、雇用主と求職者に分かれ、模擬面接を行う。これまでに、生徒は面接を受けたことはあっても、面接をする立場に立った経験はない。本題材では、生徒が面接をする雇用主の立場になることで、これまでとは違った角度から仕事について考えを深めていく。さらに、社会人に必要な資質や能力とはどのようなものか、自分の長所や有利な点は何か、今後さらに伸ばしていくべき点は何か等を考えていくようにする。これらの活動を通して、目標とする進路に向かって意欲的に取り組んでいくことができると考え、本題材を設定した。

また、着目したい生徒への指導の方向性としては、人それぞれ様々な個性もっていることをおさえることで、他者との比較ではなく、自分なりの目標を考えられるよう支援する。このように「C自己主張・自己決定」に視点をあてた手だてを講じることで、生徒一人一人が自分の個性を伸ばしていこうとする意欲をもたせていきたい。

なお、本題材はホームルーム活動として学習指導要領上で次のように位置付けている。

(3) 学業と進路

エ 進路適性の理解と進路情報の活用

カ 主体的な進路の選択決定と将来設計

4 自尊感情や自己肯定感を高めるための視点

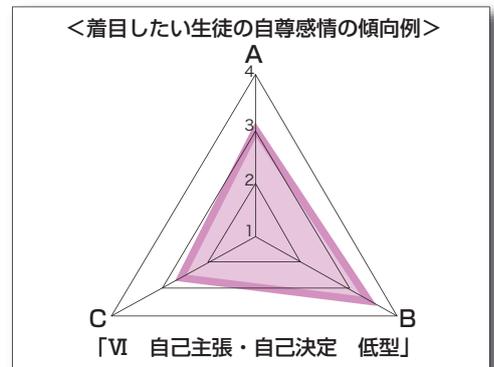
- ・自分の進路に向かって、自分をどのように伸ばしていくか考えることができるようにする。

（特に重点にする観点と指導上の留意点…【C自己主張・自己決定 ③可能性の認知】）

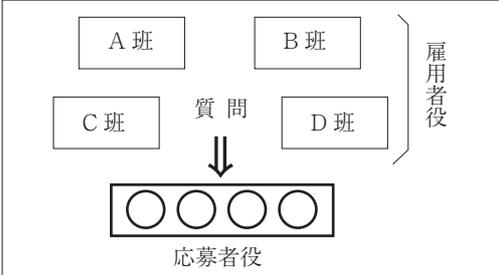
5 本時までの指導の流れ

- ・生徒の自尊感情の傾向を把握するために、自己評価シートを用いて調査を行う。
- ・生徒の進路の決定状況を配慮して指導計画を立てる。

*本授業は、主体的な進路選択や将来設計につながる学習として、高等学校第2学年で行うことも有効である。



6 本時の指導（展開例）

	<p>学 習 活 動</p>	<p>○指導上の留意点 ☆評価 ■自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等 □着目したい生徒への指導の方向性</p>
<p>導 入</p>	<p>(1)今の自分を見つめながら、今後自分をどのように伸ばしていくかを考えていく学習であることを知る。 (2)「保育士」を例にとり、雇用者の立場に立って求人条件を考える。</p>	<p>○保育士にふさわしい条件について、必要な技能や経験だけでなく、人柄や態度なども含めて考えさせる。</p>
<p>展 開</p>	<p>(3)飲食店を経営するという設定で、各グループで求人条件を考え、ワークシートに記入する。 (4)各班から応募者役を選び模擬集団面接を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用者役は、自分たちの飲食店の求人条件を全体に伝える。 ・各班から1名ずつ、学級全体で計4名の応募者役を決める。 ・雇用者役は、応募者役に質問を行う。 ・応募者役は、各班からの質問に対して回答する。 ・雇用者役は応募者役の回答を聞いて、感じたことをワークシートに記入する。 </div> <p><模擬集団面接の配置></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  </div>	<p>○応募者役は、求人条件に合わせて自分の経験や技能などのキャリアを設定してもよいこととする。 ○「保育士」を例にして考えたことを参考にし、必要な条件を考えさせる。 ○雇用者役は、応募者役の回答を聞きながら、印象に残った態度や言葉をワークシートに書く。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>○面接等で応募者の適性や能力に関係のない事項の質問などは、就職差別につながるものであることを丁寧に説明する。</p>
<p>ま と め</p>	<p>(5)求人条件を考え、質問したり回答したりした活動を振り返りながら、「他者にアピールできる自分の良いところ」「自分がこれから伸ばしていきたいこと」についてワークシートに記入する。 (6)記述したことを発表し、考えを共有する。</p>	<p>■模擬面接を振り返ることで、自分の進路に向かって自分をどのように伸ばしていくか考えることができるようにする。 【C自己主張・自己決定 ③可能性の認知】 (⇒P.21) □人はそれぞれ様々な個性もっていることを押さえ、他者との比較ではなく、自分なりの目標を考えられるようにする。(⇒P.15) ○自分の良いところやこれから伸ばしていきたいことを具体的に記述しているものを紹介する。 ☆仕事や社会人に必要な資質や能力について考え、今の自分を見つめながら、今後自分をどのように伸ばしていくかを考えることができたか。</p>

【学習を通じての生徒の変容】

○模擬面接においては工夫された質問や回答が見られ、それぞれの立場になって役割演技をすることができた。
 ○振り返りシートには、多くの生徒が自分の良いところや伸ばしていきたいところを考え記述することができた。自己評価シートによる自尊感情の調査でCの観点が低かった生徒も、自分自身を客観的に見つめ、これから伸ばしていきたいことについて記述することができた。

7 資料 (ワークシート)
グループ活動の進め方



グループが経営する飲食店の求人条件を考えてください。

①店で扱う料理の種類は? ⇒「
」

②店に必要な仕事は? (調理補助/接客/販売/経営/事務/配達/広告など)
⇒「
」

③店の名前を下に書いてください。

の求人条件

応募条件: どのような人を採用したいですか。

「はい」「いいえ」だけでなく、広がりのある回答ができる質問を考えましょう。

質問するときには: ×「あなたは粘り強く努力できますか。」→○「過去に努力した体験を教えてください。」

面接時メモ欄: 応募者役の発言で印象に残ったことを書いてください。

特技・得意科目: 採用するにあたって重視する、経験や技能を書いてください。

質問するときには: ×「あなたの特技は何ですか。」→○「なぜ特技になったのですか。」

面接時メモ欄: 応募者役の発言で印象に残ったことを書いてください。

3 年 組 番 名前

個別の教育相談に活かす実践事例（高等学校）

高等学校 自尊感情等の個人データの作成、管理・活用

1 目的

- 一人一人の自尊感情の傾向を定期的に把握し、個人データとして個票を作成することにより、日常的な指導の改善に生かすとともに、生徒の学校生活へのよりよい適応感を育み、不登校や退学の未然防止や進路指導に役立てる。

2 方法

- 自己評価シートを実施する。（5月、9月、1月 年間3回程度）
（学校の実態により、学校環境適応に関するテスト（*）と学校生活における満足度を測るテストを合わせて実施する。）
- 個々の結果を個票（54ページ参照）にし、教員間における指導の方向性の共通理解や個別のカウンセリング等に活用する。

3 取組の効果や課題について

- 教師が何となく「自信がなさそう」と感じていた生徒について、生徒本人は実際に自分をどう捉えているのか、客観的なデータとして指導者が把握することができたため、教師も指導の方向性について検討でき、自信をもって生徒に向き合うことができた。
- 学習意欲や対人関係など、個々の課題とする側面を明確にでき、それらを改善しながら自尊感情をよりよく育むことの見通しをもつことができた。
- 生徒一人一人の状況を継続的に把握し、卒業までのキャリア形成に効果的に活かしていく個票の活用方法について検討していきたい。

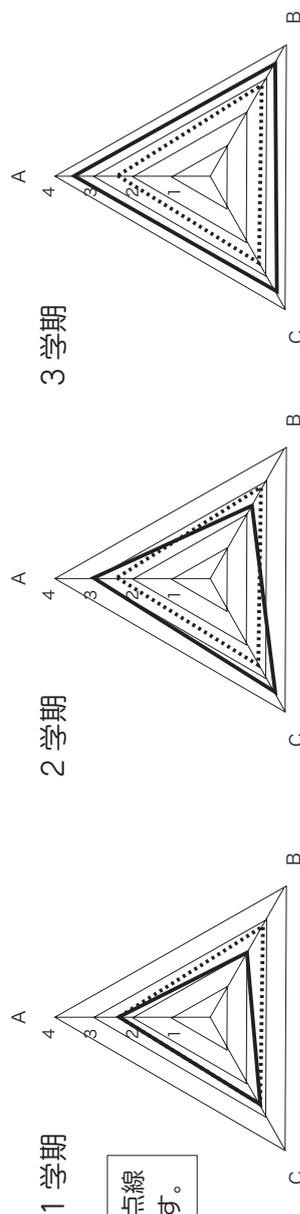
（*）学校環境適応に関するテストは、慶應義塾大学の調査研究において実施したもので、「部活動への積極的な態度」「教師関係適応」「学習意欲」「進路意識」「友人関係適応」について質問紙調査を行ったものである。

個別の教育相談に活かす実践事例（高等学校）

実施した自己評価シートの結果を表やレーダーチャートで表し、学校や東京都の平均と比較したり、年間を通してどのように変容しているか把握したりできるようにする。

高等学校 自尊感情 個票 1年 1組 1番 (名前) 東京 太郎 男・女

	1 学期	2 学期	3 学期
本人の結果	2.88	2.96	3.55
本校 第1学年の平均 (男子)	2.55	2.52	2.58
東京都 第1学年の平均 (男子)	2.43	2.43	
本人の結果	2.43	2.68	3.25
本校 第1学年の平均 (男子)	2.90	2.95	2.80
東京都 第1学年の平均 (男子)	2.91	2.91	
本人の結果	2.71	2.95	3.45
本校 第1学年の平均 (男子)	2.91	3.05	3.08
東京都 第1学年の平均 (男子)	2.88		



実線は本人の結果、点線は東京都の平均を示す。

メモ欄